

1 題材名 響き合う形と色

2 題材設定の背景

題材観

本題材はあらかじめ構想をもち、試作などを経て構築する表現とは異なり、音楽を聴いた印象などから発想を広げて抽象的な作品を制作する題材である。図画工作科から美術科に変化し、「絵を上手く描かなくてはならない」という意識が芽生えたり、周囲を気にしたりする傾向が強くなっている7年生に対して、上手い下手ではなく心をまっさらにして線を描く楽しさを再確認することができる。しかし、メロディーやテンポ、曲調などから、形や色を連想して絵に表現する抽象表現は、具象表現よりも自分の描きたいものをイメージしていく必要があるため、絵に苦手意識のある生徒にとっては手の進みにくい題材となる。生徒は、ヴァシリー・カンディンスキー達が音楽を聴きながら描いた絵画を鑑賞し、抽象表現への理解を深めながら、形や色の捉え方に正解はなく、自分なりに根拠をもって描けばよいことを意識し、一方で初めての抽象表現を通して、自分だけの表現に挑戦する機会になる題材になると考える。

生徒観

生徒の美術の授業に対して主体的に取り組む態度は肯定的な意見が98%を超えているのに対し、鑑賞に興味があるかという項目については肯定的な意見が81%、抽象画に興味があるかという項目については75%という結果になった。入学して最初の題材では4つの基本形(球体・円柱・円錐・立方体)に陰影をつける練習をしており、抽象的な表現よりも具象的な表現が生徒にとって身近なものとなっているため、何を描けばよいのか困惑する生徒がでることが課題として挙げられる。

集団観

美術室は常に生活班と意見を交流したり、作品を見せ合ったりしながら制作できる形態になっている。音楽を元に描く抽象画では、「高い音やメロディーの時には〇〇な線が描きたい」、「テンポが速いときは線を〇〇のように動かしてみる」、など、生徒同士でどのような工夫ができるか対話を通して表現の幅を広げてほしい。

指導観

授業の導入で教師が音楽を聴きながら描いた抽象画を比較鑑賞し、音楽の特徴を捉えながら形や色の工夫、意図を見つけさせる。鑑賞を踏まえ、生徒が何を描けばよいのか困惑しやすいという課題に対し、テンポやメロディー等に応じてどのような線や色が描けるか例を示すとともに、生徒から出た意見を共有し、描けばよい線のイメージを膨らませながら、抽象画に対する難しさを払拭していきたい。

3 題材の目標及び計画(全4時間)

■題材の目標

音楽を基に主題を生み出し、形や色による抽象表現を通して、感じ方や考え方を深めることができる。

■単元(題材)の計画

第1次 音楽を聴いて表現した作品の鑑賞と表現・・・1時間(本時)

第2次 アイデアスケッチを基にした抽象画の制作・・・2時間

第3次 完成した作品の相互鑑賞と対話・・・1時間

4 単元(題材)の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
形や色などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴をもとに音楽から受けた印象などを絵に表した作品を全体のイメージで捉えることを理解している。また、自分の気持ちや印象に合った材料や用具を選択し、意図に応じて工夫して表している。	音楽を聴いたときの気持ちや印象などをもとに主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。	美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく音楽から受けた印象などを形や色で表す表現の学習活動に取り組もうとしている。また、音楽から受けた印象などを表した作者の思いや表現の工夫を感じ取る鑑賞の学習活動に楽しく取り組もうとしている。

5 本時の学習

- 目標 「動物の謝肉祭『ピアニスト』『化石』『白鳥』」を聴いて、メロディーや曲調、テンポなどから形や色、構成などを創造し、他者の描く線などを参考にしながら、試行錯誤して抽象画を描くことができる。

■学習過程 ※ (全) (小) (個) : 学習形態 (全: 全体の場合 小: 小集団 個: 個人) ㊟: 留意点 ㊠: 評価の観点 (方法)

学習事項	生徒の活動	教師の働きかけとねらい	集団
1. 学習課題への接近	(1) 教師が描いた3つの作品(『Summer』・『月の光』・『交響曲第9番新世界より』)を比較鑑賞し、どの音楽を聴きながら描いたものか考える。 ・線が荒いからテンポが速い音楽を聴きながら描いたと思う。 ・色合いが爽やかで、曲調に合っていると思う。	(1) 形や色を根拠に、なぜこの音楽を聴きながら描いたものなのかを考えさせる。 ・Summer は夏らしい配色で、優しいメロディーに合わせた緩やかな線が描かれている。	(全) 生徒全員が抽象画に触れることができるようにする。
2. 学習課題の設定	(2) 学習課題を設定する。 「動物の謝肉祭『ピアニスト』『化石』『白鳥』」を聴いて、それを表現できる形や色を見つけよう。	(2) 教師が描いた作品から描き方や形、色の特徴をおさえ、どのように描けばよいかイメージをもたせる。 ・夏だから爽やかな寒色系。 ・テンポに合わせて上下する線。	(全) 表現できる線や音楽を踏まえて表現する色について全体で共有する。
3. 学習課題の追求	(3) 3つの音楽を聴いて色鉛筆で抽象画を描く。 (4) 描いた作品を生活班で見せ合った後、全体を歩いて回り、友達の作品を鑑賞する。	(3) 手が止まっている生徒に対しては、テンポに合わせて色鉛筆を動かしてみるように伝える。 ㊟上手い下手ではなく、自分らしい表現ができるよう、生徒が描いた作品に対しては肯定的な声掛けを行う。自分らしい表現とは、他者の作品を見て、「こう描かなければならない」と囚われるのではなく、自分の思った形と色で思うがままに描くことである。 ㊠音楽の特徴を捉え、意図に応じて形や色を工夫しながら表現している。(ワークシート) (4) 自分と共通している表現と、自分と異なる表現をしている作品を見て、表現の幅広さに気付かせる。	(個) 自分の感じたままに表現する時間を確保するため。 (小) → (全) 他者の作品を鑑賞し、自分とは違う表現を知るため。
4. 本時のまとめと次時への発展	(5) 活動を振り返り、感じたことや思ったことをまとめる。 ・音楽を聴いて線を描いたり、色を決めたりするのは難しかったが、友達と自分の表現が違って個性が出て面白かった。	(5) 友達と自分の作品を見比べて、どのような表現の違いがあったか知り、表現の幅広さに気づかせる。 ・友達と自分の作品にはどのような違いがあっただろうか。	(個) 自分の考えをまとめる時間とする。